

東京都・関東支部ボランティア隊第2陣

疲労困憊でも頑張った 現地の姿は 今でも衝撃

▽日時 4月11〜13日

▽場所 宮城県南三陸町

▽隊長 隊長・安岡晃宏(株)プロテラス)

▽副隊長 副隊長・大木慎一(株)千歳観光)

▽光) 山際哲雄、五十嵐拓(株)千歳観光)

▽光) 乙川隆啓(株)プロテラス)、茂木祐介、田胡智行(NEXUS(株))

▽作業 気仙沼及び南三陸町のワカメ加工作業

1日目の作業は、気仙沼で今が旬な産物のひとつであるワカメの加工作業のお手伝いでした。水揚げされたばかりのものをポイルし



作業前のため港に集まった東京都・関東支部のメンバー

て小分けの袋に詰めるまでの一連の流れ作業です。作業は思った以上にきつく、時間的には短かったのですが、かなり疲労困憊でした。現地で作業に当たっている方々の年齢も高く、この作業を毎日行うのはきついだらうと思います。ただ、現地のみなさんが復興のために出来ることをやる、目の前の必要なことをやるという思いは見ていて痛いほど感じました。

2日目は、南三陸の別の現場で1日目より細かい作業で、ワカメの葉(?)と茎を分離させる作業でした。これも時間はかかりますが、物量は手作業でなかなか進まなかったもので、どの程度お手伝いができたのかは、少々疑問が残りました。時間的猶予がなく、帰路に着くかなければならない状況で、もう少しお手伝いしなければならぬと思いますながら、現地を後にしました。

活動での問題点としては、ある程度仕方ないことですが、現場の仕切りや段取りがあまり良くない

ので、限られた人員を有効に使う工夫はした方がよいと思います。

1日目の作業終了後、2時間程度現地を視察させていただきましたが、ことの甚大さをあらためて感じました。南三陸の現場(かなりの頻度で報道された現場)の前に立ったときはしばらく動けないくらいの衝撃がありました。月並みなことですが、日々、通常の仕事をしていることで感じるストレスや不安は非常に小さなことだ感じました。(安岡晃宏)

日遊協事務所長会議 新体制などで質疑応答

日遊協事務所長会議は4月26日、日遊協本部会議室で開かれ、7支部から事務所長と同次長、本部から庄司孝輝副会長、篠原弘志専務理事、伊東慎吾常務理事、佐藤千治事務局長らが出席した。5月1日付で事務所長に就任する東北支部の気仙次長、中部支部の眞野次長が紹介された。4専門委員会・4プロジェクトチームを中核とする日遊協の新体制、新年度の重点推進事項と収支予算案などが説明され、質疑応答があった。支部事務所長、次長の出席次の

通り。(敬称略)

吉田義幸(北海道)▽気仙浩一、高橋文良(東北)▽江口憲治(東京都・関東)▽眞野年之、石黒重宏(中部)▽河村美三(近畿)▽成光二夫(中国・四国)▽北島俊和(九州)

中部・眞野、東北・気仙氏 新支部事務所長決まる



(上)眞野中部支部事務所長 (下)気仙東北支部事務所長

日遊協中部支部の石黒重宏、東北支部の高橋文良両事務所長と本部総務課の新妻輝子庶務係長が4月30日付で退職した。後任として、4月1日付で中部支部事務所次長に眞野年之氏、東北支部事務所次長に気仙浩一氏が採用され、5月1日付でそれぞれ事務所長に就任した。眞野中部支部事務所長は1970年愛知県警採用。本部総務課補佐、刈谷署生活安全課長、安城署同を歴任した。60歳。気仙東北支部事務所長は70年宮城県警採用。本部銃器薬物対策課捜査第一係長、大河原署生活安全課長、本部生活安全企画課補佐を歴任した。60歳。

近畿支部総会及びセミナー

「大衆娯楽としての発展を」 再選の福井章支部長が強調

近畿支部（福井章支部長）総会及びセミナーが4月20日、大阪市・KKRホテル大阪で開催された。

総会の最初に福井支部長が挨拶に立ち「さまざまな問題が私たちの周りで起きている。カジノほどの程度影響があるか注視し、10%になる消費税は委員会のワーキンググループで活発に討論しているが、私たちそれぞれの意識が大切だ。

大震災や不況の中ではあるがボラティア活動はもちろん、大衆娯楽として業界が発展するために努力を続けたい」と決意を述べた。

深谷会長は「広告など行政から厳しい指導を受けている。原点に戻って行き過ぎたところは是正した。私たちは唯一横断的な組織としてお客様と共に生きていくものであり、パチンコをしない人にも支持されるなりわいとしなければならない」と挨拶した。



来賓として出席された大阪府警・井谷隆雄保安課長は、「大阪府下で防犯カメラを多く設置したことにより、ひったくりなどの犯罪が大幅に減った。犯罪への安全装置として機能したわけだが、パチンコにとって安全装置はなにか。不正を許さないために日遊協、健全化推進機構、PSIOなどを連携させて、より健全化につとめてほしい」と講話した。

任期満了に伴う支部長選で、福井氏が再選された。副支部長は井上威夫、中川明美の両氏が留任した。第2部のセミナーでは、日遊協・篠原弘志専務理事が「風営法における諸問題について」と題して講演し、大丸商事(株)・大久保正博社長(日遊協副会長)が今後の遊技機

を中心とした業界動向について、(株)コスモローム研究所・南光国昭氏が「最近のゴト事例とゴト対策事例について」の講演を行った。夕刻から開かれた懇親会には、大阪府遊協・平川容志理事長初め多くの業界関係者がにぎやかに歓談した。

「北海道支部拡大交流会」開く

会員支社幹部が一堂に 「意見交換し理解と協力を」

支部強化事業の一環として、日遊協北海道支部が主催し、メーカー会員や大手ホール会員の出先機関の役員・幹部を招いての「北海道支部拡大交流会」が4月24日、札幌市の京王プラザホテル札幌で開かれた。北海道支部の会員企業と、本部登録会員で北海道に支社・支店・事務所等を置く企業計35企



北海道支部の拡大交流会であいさつする松谷支部長

業から、支社長、支店長、所長などの幹部を含めた60人が一堂に会し、懇親会では名刺交換や懇談が和やかに行われた。同支部の拡大交流会は昨年4月に次いで2回目。冒頭、松谷明良北海道支部長が「今日お集まりの皆さんの会社は日遊協に加盟していますが、多くの方は本社が東京や名古屋にあり、出先の北海道では日遊協会員であるという認識が希薄だと思えます。この機会に北海道にもこんなに会員がいるんだと感じていただき、意見交換の中で日遊協活動に理解と協力をしてください」と挨拶した。

九州支部総会・講演会

新支部長に樋口益次郎氏
 厳しい時代に「改革」を強調

九州支部（山口雅弘支部長）は4月19日、グランドハイアット福岡で、平成24年度総会・後援会を開いた。

冒頭、山口支部長は「東日本大震災では根拠のないパッシングに苦しめられました。輪番休業を含み節電活動で乗り越えて来た。その努力は評価されていいと思いますが、それにしては業界の情報発信力のなさを反省しなければなりません。世論に対して業界の必要性をはじめ、その姿を示していくべきであり、それができるのが「日遊協です」とあいさつした。

来賓の深谷友尋日遊協会長は「多くの人たちが昨年の節電活動などよくやったと評価しています。そ



懇親会で、樋口新支部長から感謝の花束を贈られる山口雅弘前支部長

新支部長としてあいさつする樋口益次郎氏



の反面、まだ変わらないという人もいます。私たちは真摯に向き合わなければなりません。一人の声を大切にする必要があります。これからの産業は装置産業から、癒し、楽しみ、コミュニケーションのある拠点として発展していかなければなりません」とあいさつを結んだ。

山口支部長退任を受けて新支部長に樋口益次郎氏を選出した。新副支部長に福山裕治、西谷淳、八坂真吾の3氏が選ばれた。平成23年度支部・本部報告、九州ポランティア基金・収支報告が行われ、平成24年度九州支部重点推進事項について説明した樋口新支部長は総会後、「遊技産業自体のあり方を社会から問われています。この業

懇親会に先立つセミナーで、回胴遊商・伊豆正則理事長が「これからの業界を語る」と題して、北海道議会議員・岩本剛人氏が「道議会から見た北海道経済の現状と展望」と題して講演した。

伊豆氏は昨年来、行政から矢継ぎ早に「通知」が出されていることについて、「行政は今後を見越して、法律に基づいた形で業界の

界の大転換期での支部長交代は重責と感じており、日遊協でしか出来ない色々な立場を越えて多くの方と話し合える場を作りたいと思います」と決意を語った。

引き続き開かれた講演会には、九州各県遊協をはじめ、非会員の方々も多く参加し、350人の聴衆で会場はいっぱいになった。エントテインメントビジネス総研の藤田宏代表が「カジノ問題について」分析を披露し、日遊協・篠原弘志専務理事が「風営法における諸問題について」と題して講演した。夕刻からの懇親会では、山口支部長と一緒に退任する津末武久、石山敬達両副支部長に樋口新支部長から感謝の花束が贈られ、盛んな拍手を受けていた。

庄司副会長（右から2人目）を囲んで、表彰された（左から）石黒、高橋、新妻の3氏



健全な育成と指導をしているだけだ。行政から見ると、この業界は都合の悪い問題を先送りするだけで、健全化がまったく進んでいないのだ」と指摘し、「業界としてやることはやった上で行政に規則改正、法改正をしてもらい、新たな娯楽の文化を創造していく。それにはここ2、3年が節目だ」と述べた。

新妻氏ら3氏を功勞表彰

4月30日で退職した石黒重宏氏は02年4月から中部支部事務局長、高橋文良氏は07年4月から東北支部事務局長を勤め、また新妻輝子氏は89年から本部事務局に勤務し、ともに日遊協の運営に多大な貢献をした。3氏は4月26日、退職職員功勞表彰を受けた。

遊技機開発委員会

4月19日
本部会議室
出席委員等16人

若者中心に4千人を「フェスタ」企画書完成

6月1、2日に東京・外神田、ベルサール秋葉原で開催する「環境フォーラム+もっと楽しく!!もって遊べる!」と遊べる!!ばちんこ&パチスロフェスタ2012の企画書が提示され、準備等を打ち合わせた。これは昨年2月26日に東京・すみだ産業会館で開かれ、一般ファン約650人を集めて好評だった「ば

ちんこ&パチスロフェスタ2012」に続くイベント。今回は業界関係者向け(初日)、一般向け(2日目)と2日間に拡大したこと、社会貢献・環境対策委員会と「環境フォーラム」を共催し、エコ・節電など業界の社会的責任を強調していることが特徴となっている。

環境フォーラム
6/1(金)のみ1日開催
パチンコ57台 パチスロ72台

業界向け「環境フォーラム+もっと楽しく!!もって遊べる!!ばちんこ&パチスロフェスタ2012」

パチンコ57台 パチスロ72台

一般ファン向け「もっと楽しく!!もって遊べる!!ばちんこ&パチスロフェスタ2012」

展示・試打される遊技機台数(予定)は現行機80台(パチンコ、パチスロ各40台)、試作機49台(パチンコ17台、パチスロ32台)となっている。このほかに雀球、パロットも加わる予定。来場者数は2日間延べ4000人を見込んでいる。とくに今回は若者が集まりやすい秋葉原で行うことから、2日目の一般向け体験・試打会には、現役ファンのほかに一度は離れた元ファンや未経験者の来場も予想され、「既存ファンの満足度向上」「新たなファン創造」を試打会のコンセプトとした。また、初日の業界関係者向けイベントで設置される環境ブースには、エコ・節電関連の企業が省エネ機材・商

材を出展する。さらに2日間を通じて各種の講演が予定されているほか、前回と同様に「遊技機アワード」の表彰も行う方向で検討されている。この日の委員会では、開催前日(5月31日)の搬入作業、翌日(6月3日)の撤収作業の各段取り、会場の配置、アンケート回収作業、説明要員等を話し合った。

社会貢献・環境対策委員会

4月13日
本部会議室
出席委員等11人

震災避難の親子も招待「共生の森」夏のイベントで

共生の森で子供たちを集めてカブトムシ採集などを行うイベントは、7月29日から30日まで一泊で行われることになった。地元小学校からの参加を50人程度と想定している。また、東日本震災のため福島県双葉町から埼玉県へ避難している親子を招待することになり、関連の組織と協議している。一泊するかどうかは参加者の希望で、カブトムシ採りのほかに虫籠作りや昼食会などが用意され、予算として100万円を組んでいる。6月1日の環境フォーラム(於、ベルサール秋葉原)で、環境機材

の展示は30社27コマが決まった。ほかに、禁煙・分煙のセミナーや「健康ばちんこ」に関する篠原菊紀教授講演、警察庁講話も行われることになり準備を進めている。

広報委員会

4月16日
本部会議室
出席委員等11人

新しい課題を協議 エッセー・絵手紙2次審査へ

専門委員会の再編に伴い、広報委員会は5月の定例理事会を経て広報調査委員会に衣替えすることが報告された。前年度に遊技機健全化委員会が扱ったパチンコ・パチスロファンアンケート調査(来店客調査)を引き継ぐほか、「のめり込み」問題も担当することになった。これらの諸課題について新年度の活動を議論した。

第2回エッセー・絵手紙コンクールは3月中の第1次選考に残ったエッセー、絵手紙各26作品が第2次選考を行う広報委員会委員に送られたことが報告された。広報委員会は4月中にエッセー、絵手紙各13作品に絞り込む。最終選考は5月連休明けに行われ、最優秀賞などの入選作品が決まる。

人材育成委員会

4月13日
本部会議室
出席委員等10人

OB編を理事会と連動・マネジメント・カレッジ

新年度の事業活動を審議した。

「第6回遊技産業マネジメント・カレッジ」について、9月27、28日に1泊2日の日程で東京・晴海グランドホテルで開催することを確認し、研修のテーマ、特別講演を頼む講師の人選について、次回までに意見を持ち寄って決めることになった。これとは別に、過去5回のマネジメント・カレッジ参加者(次期経営層)を対象にした「マネジメント・カレッジアドバンス(OB編)」を、日遊協第4回定例理事会(11月15日予定)と連動させた形で開くことを確認した。

これまでホールの店長や店長候補者を対象に行なっていた店長候補者



第6回遊技産業マネジメント・カレッジなどを審議した人材育成委員会

講習・試験を改善し、店長及びメ

ーカー・販社等の管理職も対象に加えて5月からスタートする「店長・管理職能力開発講習・試験」について、時間割表を確認し、各開催日での担当講師(人材育成委員会委員)を選んだ。会員企業の人事担当者を対象にした人材育成担当者フォーラムの年3回開催を確認した。また、東京・晴海で今年末か来年初めに予定される(株)リクルート主催のリクナビ・合同就職説明会について、参加する方向で話し合った。

警察庁と連絡会議

業界全般と日遊協活動

深谷会長ほか報告

警察庁と日遊協の今年最初の連絡会議が4月24日、東京グランドアーク半蔵門で開かれた。警察庁から担当官のご出席をいただき、日遊協からは深谷友尋会長はじめ副会長、専務理事、常務理事、相談役の11人が出席した。

深谷会長が遊技産業の現状について報告したあと、それぞれの担当者が関係団体との会議、専門委員会の改編、新公益法人への移行、健全化推進機構の運営について説明した。また、「フェスタ」の開催、エッセー絵手紙コンクール、インターネット広告協議会、大震災のボランティア活動、リカバリーサポート・ネットワークなどについても報告した。引き続き、産業界全般にわたって、意見が交換された。

ホール5団体風営法WG

運用基準の見直し検討

ホール5団体風営法検討会ワーキンググループ会議は4月9日、日遊協本部会議室で開かれ、解釈運用基準の見直しと今後の検討事項について協議した。全日遊連、日遊協、同友会、余暇進、PCS Aから幹部、法律担当者等17人が出席した。

風営法ワーキングチーム

警察庁2通知で質疑

風営法改善のための要望事項を審議する日遊協の風営法ワーキングチーム(WT)の第5回会合が4月25日、日遊協本部会議室で開か

れ、メンバー9人全員が出席した。法令等改正要望の検討が行われたあと、4月13日に警察庁から出された2通の通知(「貯玉・再プレイシステムの利用に伴う手数料の取扱いについて」「ぱちんこ営業において客に付与されるポイントの取扱いについて」)の解説と質疑があった。

不正対策室会議

一般ファンから170件増

不正対策室会議(室長・伊東愼吾)日遊協常務理事)は4月18日、日遊協本部会議室で開かれPSIO(不正対策情報機構)への入力報告を行い、ゴト・不正情報について検討した。

3月のPSIOオープンネット(業界及び一般ファンからの不正情報)は、業界から28件、一般ファンから667件の入力があった。一般ファンの入力は昨年3月(47件)に比べ170件増加した。

最近、パチスロに対するゴト情報が多く、電磁波、セル、ピアノ線などそれぞれの手口について分析し、不正情報ではファンのホールや遊技機への誤解などについて話し合われた。

「地震対応マニュアル」作成へ

7項目の手引きをまとめる
経営改革委員会
・危機管理PT

経営改革委員会・危機管理プロジェクトチームは3月30日、「企業・店舗のための『地震対応マニュアル』作成の手引き」をまとめ、日遊協ホームページの会員専用サイトで公開した。（日遊協ホームページ「会員専用サイト」の「データ」アンケート・資料」をクリックする）

各店舗は消防法による防火管理者の選任、通報・避難・誘導を柱にした消防計画作成、消防訓練の実施などが義務づけられており、火災に対する備えはほぼ確立されている。しかし、東日本大震災クラスの大地震災害についての備えは皆無とみられるところから、大地震での行動指針の必要性が指摘され、同プロジェクトチームがホール企業の本社や各店舗レベルでの地震対応方法について検討を重ねてきた。今回、「作成の手引き」をまとめるにあたっては、愛知県防災局の「事業所のための『防災マニュアル』作成の手引き」や大手ホール企業の「防災マニュアル」等が参考とされた。

「手引き」は①会社の防災に対する理念の明確化 ②マニュアルの作成方法 ③事前準備 ④詳細版マニュアル ⑤店内避難誘導図・一時避難場所 ⑥出玉補償 ⑦緊急連絡網——の7項目からなる。

①会社の防災に対する理念の明確化」では、理念や目標（例えば「人命最優先」「二次被害防止」「社会貢献」）を据えたら、これを考え方の原点として行動し、連絡網の遮断を想定して店舗責任者への権限委譲を明確に打ち出しておくこととしている。

②マニュアルの作成方法」では、地震発生直後↓揺れの収束↓被害状況確認↓行動方針決定——など時系列での対応をまとめることとしている。例えば、通信手段確保、非常放送、避難誘導、帰宅困難者の扱い、地域協力などが含まれる。「③事前準備」では、マニュアルの全スタッフへの周知、災害予防対策、防災用品・飲食料の備蓄、定期的な防災訓練、防災管理者講習や救命講習の受講を社員に勧めて技能・

知識習得者の増加の図ることなどを挙げている。このうち、災害予防対策としては什器の転倒予防策、照明器具・機器類の振動・落下防止

器の転倒防止策などを挙げている。さらに、JR、私鉄のターミナル駅周辺に立地する店舗で、お客様の帰宅困難が懸念される場合は、市区役所の帰宅困難者対策担当に地元の対策を確認し、帰宅困難者対策協議会のようなものがあれば参加を検討するべきとしている。

④詳細版マニュアル」では、消防や自治体のホームページなどから所在地や店舗の被害想定を検討・検証しておくこと、時系列で店舗責任者やスタッフの詳細な行動マニュアルを作成することとしている。その上で最後に、「大災害では想定外の事態も生じ、発生したらマニュアルを読んでいる余裕はない。マニュアルを暗記するより、それを参考にしつつ、どのような事態になるかのイメージを豊かに持つことが大切だ。同時に、素早く行動し、お客様の安全確保をはかるため、マニュアルに基づく訓練を定期的に実施することを義務づけよう」と結んでいる。

ホール5団体消費税対応会議
14委員で初会合開く
座長に青松全日副理事長

ホール5団体消費税対応ワーキングは4月17日、日遊協本部会議室で14委員が出席して初会合を開いた。座長に青松英和全日遊連副理事長を互選した。全日遊連の消費税に関する対応の、過去の経緯が報告された後、5団体の委員とオプザーバーが意見を出し合った。

この会議は、業界のコンセンサスづくりのため、さる3月9日のホール5団体代表者会議で全日遊連側から提案があり、設置が決まった。

貯玉補償基金理事会
被災「事業会費」免除を承認

一般社団法人貯玉補償基金代表理事・深谷友尋日遊協会長は4月11日、日遊協本部会議室で第40回理事会を開き、1議案を審議した。第1号議案として、センタ事業者「事業会費」徴収免除の件が審議され、東日本大震災に伴う被災加盟17店に対応する「事業会費」の徴収免除に關するセンタ事業者からの要請を承認した。また、「貯玉補償基金加盟状況」「資金運用状況及び資金運用継続」「東日本大震災被災状況」「職務執行者変更」について報告された。